

“群馬特産”を誇る尾島町の大和芋

尾島町農協に大竹営農課長を訪ねて……。

本 誌 記 者

芋のでき工合はまあまあ

10 a 当り400箱見当だろう

“とろろ汁”や“山かけ”は、数ある日本料理のうちにあって、これほど素朴で甘い料理はあるまいと思う。群馬県新田郡尾島町一帯は、“群馬特産”を誇る“大和芋”(やまといも)の産地として知られ、東京築地市場における声価の高まりとともに、この頃では後進産地から尾島町農協に、技術指導の要請が相次ぐということだ。

記者はチッソ旭(株)の末吉さんと去る11月7日、尾島町農協を訪れて営農課長の大竹さんから、いろいろお話を伺うとともに、“前小屋共同出荷場”と“堀口共同出荷場”を視察する機会を得たので、“大和芋”の栽培と施肥管理の概要を述べてみたい。

“この辺でよからう…”大竹さんの声がかかって、自動車は“前小屋共同出荷場”の前で停った。



大竹さんと斉藤さん (右側：群馬県経済連新田・山田支所 園芸担当)

この日は3日目。約50名近い生産農家が集っていて、なかなかの賑いであった。

出荷場の右側正面には黒板があって、土間には大和芋と、長芋別それぞれの階級順(大和芋=AA, A, B, C, D, 長芋=AA, A, B, C)にならべられ、あたかも大竹さんの裁定を待つかのようであった。

“ほれ、これが大和芋の代表的なAAクラスだ。肉が厚すぎず、パチ状に開いておって、汚れも凸凹もなく、12, 3枚で4kgになるくらいのが良い。写真をとるならまずこれだ。カラーでないとは残念だが…”

合間(あいま)をみて大竹さんがAA物のケースを持って来られたのをパチリと撮ったのが別掲の写真。

記者は、土間の中を走り回っては何や彼や世話を焼い

ている或る中老の生産農家に、ことしの芋のでき工合、主軸肥料であるCDU複合磷加安 S555の肥効などを聞いてみた。

“芋のでき？まあまあと云ったとこかな？10 a 当り400箱(4kg詰)とみとけば、まちがい無えだろうよ。芋は、ここの北でも南でもできるけど、いい芋ができるのはやっぱりこの辺一帯

だろうなあ。それには訳がある。ご存知だろうけど昭和22年のカスリン台風で利根川が氾濫したお陰で利根左岸と、あんた方が越えて来た早川の右岸にはさまれ

たこの辺一帯には、うんと栄養分が堆積したでね……。ほかの産地とは土台からちがうと云う訳よ”

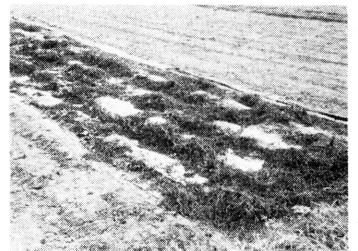
“CDU化成？うん、俺(おら)ところでも使ってるけど、大体有機質肥料をやっとけば、6年連作しても心配ねえと云われとるでねえ。”

“共同出荷制に踏みきってまだ日が浅いけども、骨折った甲斐があったと云うもんさ、芋は全部、東京築地の“丸果”に送ってるけど、皆んな段々と共同出荷制に踏みきって良かったと判って呉れるだろうよ。”

格付け裁定が済んだ4kg詰めダンボール箱3つを重ねて、紐(ひも)をかけている農協職員を眺めていた或る生産農家が、感に堪えぬかのように、“もう個人、個人のシールも紐もいらなくなっちゃったなあ！”と、つぶやいていたのが非常に印象的であった。

“前小屋共同出荷場”を出て、ここへ来るときに渡ってきた早川に架る橋を渡って右に降りたあたりにある“堀口共同出荷場”に立寄った。

ここは面積的に 格付け済み出荷を待つ(前小屋にて)



大和芋畑を見る

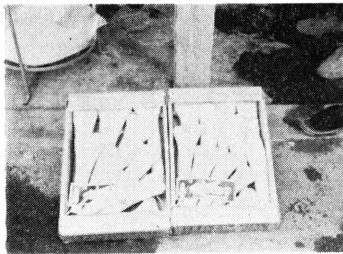


格付け済み出荷を待つ(前小屋にて)

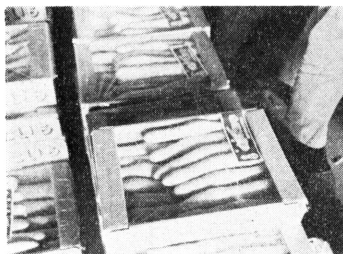
“前小屋共同出荷場”管内より狭小だとみえて、出荷場も小さく少数の生産農家が芋を搬入していたが、土壌条件がちがうと、“こうもちがった芋ができるのか？”と思えるほどちがいがあった。大竹さんは後で“あの辺は前小屋あたりに比べると、粘性が強いだね…”と云っていた。

カスリン台風と利根川の氾濫

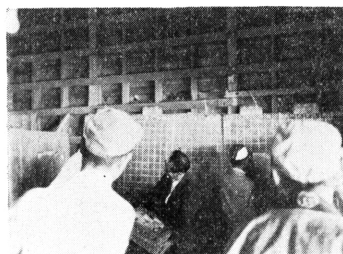
堆積物に恵まれた野菜地帯



AA級(極上)の大和芋



長芋(棒状)

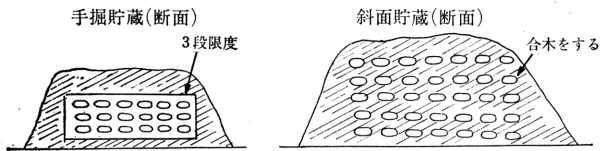


出荷場内の人達(前小屋にて)

芋のしまりの良いもの、㊶竜頭が丸く太ったもの、㊷良く成熟したもの、㊸病害虫にかかっていないもの。

種芋の切り方と必要量：㊹種子芋をとる時期は12月中下旬にする。切るときは天気の良い日を選び、首を種子にする場合は11月～5月上旬まで可能である。㊺切る芋の重量は子種により異なるが、概ね60～80g程度である。㊻切るときはカブノランをつけ腐敗を防止する。㊼種子の必要量は畦巾×株間×1個の重量で決める。(例75cm×24cm×70g=373kg)

貯蔵の方法：㊽切断後2～3日たってから(黄白色)



貯蔵する。㊾貯蔵場所は野菜など連作した土壌を避け病害虫のない土壌を選び、かつ排水の良いことが条件、㊿貯蔵方法には手掘りと斜面貯蔵とがある。

定植：㊽植付時期は4月上旬～5月上旬にする。㊾畦巾と株間は75cm×24cmが限度で、これ以下にする。特に早魘が予想されるときは畦間、株間とも狭くする。

肥料：10a 当り成分としてN30～35kg, P30kg, K35～40kg, 鶏糞200～300kg, 堆肥2,000kgを施用する。

施肥要領は㊽元肥の有機質肥料(CDU複合磷加安を含む)は早期に施用し、このほかの一般化成肥料は植付時から発芽時5月下旬)までに施用する。㊿追肥は7月上、中旬までに終了するようにする。㊽大和芋のpHは6.0以下であることを考え、燐燐や石灰類は土壌pHに留意して施用する。

<施肥例>の①

肥料名	施肥量	N	P	K
元肥				
重焼燐(35%)	40kg		14.0	
磷硝安加里(16.10.14)	60	9.6	6.0	8.4
CDU磷加安S555	120	18.0	18.0	18.0
硫加(50)	20			10.0
追肥				
NK化成(18.0.18)	40	7.2		7.2
合計		34.8	38.0	43.6

<施肥例>の②

肥料名	施肥量	N	P	K
元肥				
有機オール8	140kg	11.2	11.2	11.2
磷硝安加里(16.10.14)	100	16.0	10.0	14.0
BMよりりん(20)	60		12.0	
硫加(50)	20			10.0
追肥				
NK化成(18.0.18)	30	5.4		5.4
合計		32.6	33.2	40.6

この施肥基準は、大和芋の施肥量は吸収成分量の3倍が標準であるとし、岩手県農業試験場で行った長芋の収量と養分吸収量を基準に割出したものである。

	N	P	K
芋の重量 2812kg	5.62 ^{kg}	1.96 ^{kg}	9.15 ^{kg}
茎葉の重量 1296	6.35	1.07	6.07
計	11.97	3.03	15.22

生育経過 (試験成績から)

①発芽状況 (植付4月17日)

区名	調査月日		発芽始	発芽まで	発芽摘日	発芽数
	6/1	6/10				
1区(首)	50%	100%	5月25日	38日	49日	
2区(中)	40	90	5 27	40		55
3区(尻)	10	70	5 30	43		62

②草丈の生育状況

区名	6/10	6/20	6/30
1区(首)	54 ^{cm}	146 ^{cm}	249 ^{cm}
2区(中)	37	112	225
3区(尻)	29	53	207

③根の発育状況：主根の発生は発芽と同時に発生し、本数は最低7本、最高11本程度。根の長さは7月20日調査で最高157cm、最短57cmであった。芋の肥大最盛期に入る前に、かなり根群が発達する。

芋の肥大状況 (2個体の平均)

区名	月日							
	7.20	8.3	8.16	8.29	9.15	9.29	10.21	12.17
1区	11.0 ^g	76.5 ^g	110.0 ^g	274 ^g	509 ^g	825 ^g	870 ^g	820 ^g
2区	3.0	79.0	86.0	395	335	773	858	730
3区	19.5	55.0	64.0	47	592	592	600	562

芋の肥大は発芽後40~50日は殆んど認められず、7月中旬頃から肥大が始り、8月上旬から9月上旬にかけて肥大全盛期に入り、9月下旬まで肥大し、10月以降は極く少なく、10月中旬以降は殆んど認められない。

形状は7月下旬からで始め、9月中旬まで大きくなり、それ以降は芋の充実期に入るようである。各区の肥大差は余り認められない。これらの点で、施肥時期は元肥、追肥ともに早期に施用するのが望ましい。

支柱、敷ワラ：支柱、敷ワラ等は、夏期の天候によって考える。この辺はこれらの材料不足で充分なことではできない。黒ビニールの使用は、土性の硬いところや雑草抑制効果はある。

病虫害防除：①黒変症、褐色腐敗病には植付前にクローピクリン剤を、10a当り20ccくらいを灌注する。線虫にはDD、ネマヒューム等を10a当り20~30ℓを全面植溝処理を行う。②葉疫病、炭そ病には4.4式石灰ボルドー液、銅水銀剤、ダイセンの400倍液を、③ヤマイモハムシにはスミチオン乳剤、DDVPの1,000液を、④ダニ類に対してはアカール1,000倍液、フェンカプトン1,500倍液、クロールマイト1,000倍液を散布する。

連作によるイヤ地現象を防ぐには
どうしてもCDUのような肥料が必要

“大和芋の栽培と施肥管理はざっと以上のとおりだが、当地域は耕地面積が僅少なため、大和芋は一般的に

連作される傾向があり、イヤ地障害や黒変症に基因する減収が考えられるので、土壤殺菌剤と線虫防除剤等を併用して、極力防除に努めるとともに、連作による化学肥料の濃度障害を除去しなければ好結果を期待する訳に行かない。そのためには緩効性窒素肥料としてのCDU複合燐加安と有機質肥料を施用して、品質の向上と収量の増大を図っているが、このCDU複合燐加安という肥料は、充分にわれわれの期待にこたえて呉れるようだ。その一つの証拠がこれだ…”と、大竹さんは別掲の表を示した。

CDU複合燐加安 S555
大口購入者氏名

これは尾島町農協管内の支部別にみたCDU複合燐加安 S555の大口購入者名である。これで見えがつかうことは、やはりトップに立っている、二ツ小屋支部の小暮マサ子さんの250袋であろう。

支部名	購入者名	数量
二ツ小屋	小暮マサ子	250
"	宮下忠良	100
"	島田喜一	100
武蔵岳	宮下武雄	100
大館	茂木祐	90
二ツ小屋	細井守	70
武蔵岳	増田富次	60
"	栗原福松	60
二ツ小屋	島田喜夫	50
"	森川緑	50
"	倉上栄作	50
"	森川りん	50
武蔵岳	宮下次雄	50
"	川岸保雄	50

もちろん大和芋1本で、1haの畑を経営しているとなれば、250袋くらいの肥料を使うのは当然だとも思えるのであるが、小暮さんのこれまでの実績は昨年の200袋が最高であったのだが、ことしから一躍250袋に増量した点と、小暮さんが35才という年齢で、お一人で耕作、経営に当たっておられる点に注目したい。と同時に、この肥料の特徴の1つである“省力性”というものが裏付けられているように思えるのである。

事務所移転のご挨拶

謹啓
時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。
さて、弊社におきましては、この度左記の通り新事務所に移転致しましたので、ご了承下さい。
先は略儀ながら書中を以てご挨拶申し上げます。
敬具

昭和四十七年十二月

チッソ旭肥料株式会社

代表取締役 児玉 義忠

新事務所

東京都中央区築地一ノ十二ノ二十二
(コンパビル9階)
電話(03) 543-七七六六番(代表)

右に伴い、当研究会も前記に移転致しましたのでお知らせ申し上げます。
農業と科学研究会